

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 199 号 —

2018 年 11 月 15 日発行

こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。

マタイによる福音書

第五章 四五節



～光バンド結成 30 周年記念～ 2018 愛のサウンドフェスティバル(日野市 ひの煉瓦ホール)

会報五言

一・酷暑の後に心地良き秋。その後、酷寒の冬か。永遠に変わらぬ自然の営み。天地創造の神の愛の営みは偉大なり。

一・厳しい寒風が樹木を鍛え、その樹木に美しい花が咲き実が実る。

一・人それぞれの人生の花も、厳冬を雄々しく健気に忍びとおした後に咲き、実となるもの。

一・愛は他人に与えればますます大きくなる。与えなければ枯れてしまう。小さな愛でも与えてみたい。きつと大きくなるかも知れない。

一・倅せはいずこにあるか？いずこにもある。生活のある処、必ず倅せあり。特に他人のために働く処に例外なく倅せあり。

地域に障害者がいることを当たり前に

日野市企画部地域協働課長 熊澤 修

平成三〇年四月一日 旭が丘中央公園内に、念願の旭が丘地区センター兼旭が丘中央公園管理事務所（以下「地区センター」と言います。）が建替えに伴いリニューアルオープンしました。これは、旭が丘地域で、今後確実に進む高齢化への準備、若い世代がまちに関われる機会づくり、そして多様な立

場の住民が交流することで、顔の見えるつながりを創ることが目的です。

地区センターのコンセプトは、旭が丘が童謡「たきび」の作詞家 巽聖歌（たつみせい）が晩年を過ごした地であったこともあり、「たきびのような暖かいつながり」としました。

さて、あたたかい地域とはどのような地域をイメージしますでしょうか？ここでは例えば、杖をついている人も、車いすの人も、乳母車を押している人も、子ども大人も『共に助け合い』『共に新しいコトを創っていく』

『共に新しいコトを創っていく』地域。そこでは誰もが挨拶や笑顔が絶えず、人やまちのあたたかさにあふれながら、人生を最後までドラマティックに謳歌する様とイメージしています。

そんな理想な暮らしが実現できるのだろうか、と疑問を持つ方もいるかもしれませんが、それを旭が丘の地で形にしている」と地域が動き始めています。その地域づくりの中心部分を担っていただいているのが、東京光の家の方々です。



就労ホームの利用者と一緒に掃除をする熊澤課長（前列右から2人目）

仕組みとしては、地区センターのオープンに合わせて、東京光の家の方々に地区センターに常駐してもらいました。これには次のような効果を期待しています。

一般的な感覚ですが助けられる立場の方が、地域の担い手として活動する姿が地域の中で日常となることで、誰もが異なるけれども同じということを知る。そして、共に助け合い共に地域の中で暮らすことができる。

そのためには、まず障害といるものを皆が理解する必要があり、障害の形は多様であり、理解と言っても実は難しいことです。ということから、私自身が東京光の家の方々の旭が丘中央公園での清掃活動に参加させていただくことから始めてみました。その日は、台風の後というこ



就労ホームの利用者と一緒に掃除をする熊澤課長（前列右から2人目）

ともあり、落ち葉や枝がたくさん公園内に落ちており、しかも小雨であったため作業環境としては辛い状況です。けれどもそれぞれが笑顔で清掃をしていました。私も自然と笑顔になっていました。そして、最後には「ありがとうございます。また一緒に清掃させて欲しいです。」という言葉を自然と東京光の家の方々に伝えていました。

また、東京光の家の職員の方から聞いたのですが、公園利用者と一緒に清掃を手伝ってくれた例もあるようです。おそらく、その方はボランティア精神に富んだ方であった訳ではないと想像します。東京光の家の方々に触れ、私も手伝いたい」と自然な流れだったのでないでしょうか。

このように障害のある方には、人が本来持っているあたたかさや無理なく引き出す力を持っていると感じています。



就労ホームの利用者と一緒に掃除をする熊澤課長（前列右から2人目）

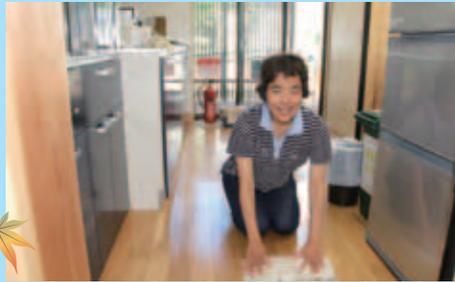
これから東京光の家の方々が地域の中で活動する姿が当たり前になることで、目指すあたたかい地域に向けて光が差し込んでくると信じています。

その日は、台風の後ということもあり、落ち葉や枝がたくさん公園内に落ちており、しかも小雨であったため作業環境としては辛い状況です。けれどもそれぞれが笑顔で清掃をしていました。私も自然と笑顔になっていました。そして、最後には「ありがとうございます。また一緒に清掃させて欲しいです。」という言葉を自然と東京光の家の方々に伝えていました。

また、東京光の家の職員の方から聞いたのですが、公園利用者と一緒に清掃を手伝ってくれた例もあるようです。おそらく、その方はボランティア精神に富んだ方であった訳ではないと想像します。東京光の家の方々に触れ、私も手伝いたい」と自然な流れだったのでないでしょうか。



今年度より、旭が丘中央公園内に「旭が丘地区センター」がリニューアルオープンし、地区センターとテニスコートの予約受付業務や弁当販売、公園清掃など、東京光の家が地域貢献活動を行う場になっていますが、利用者のみならずも、この地区センターを中心に、さまざまな地域における公益的な取り組みを行っています。



光の家新生園で、利用者のみなさんが月1回、地区センター内外を清掃する活動「クリーンデイ」の様子です。

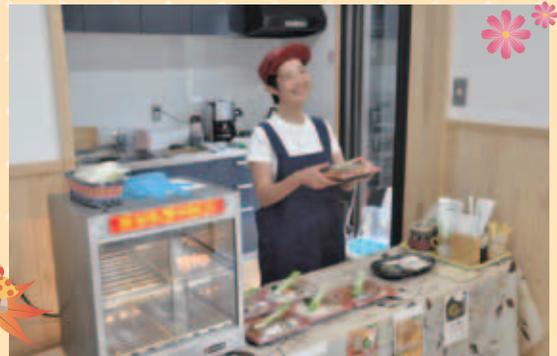
今年度、就労ホームに導入された軽トラックを使って、旭が丘中央公園内の清掃活動を行っています。職員、利用者が協力して、落ちた枝や葉などを次々と荷台に載せて行きます。



東京光の家の地域における公益的な取り組み
旭が丘地区センターでの取り組み



汚れや落書きがあった公園内公衆トイレの内壁を、光の家職員が洗浄、再塗装を行いました。



月1回の移動図書館ひまわり号の巡回日に合わせ、利用者が喫茶コーナーで弁当などを販売し、多世代交流の場に参加しています。



2018愛のサウンドフェスティバル

光バンド結成30周年記念
チャリティーコンサート

つむぎ

2018.9.15

ひの煉瓦ホール[日野市民会館]



いのちの光があなたの掌に導かれる
この世に生を受けここに導かれる

く





光バンド

「愛のサウンドフェスティバル」 実施のご報告

光バンドは、結成三〇周年を迎えました。今年度の愛のサウンドフェスティバルは、サブタイトルに「紡ぐ(つむぐ)」と題して、結成三〇周年記念チャリティーコンサートとしてひの煉瓦ホール(日野市民会館)にて開催いたしました。

演奏内容は、「素敵な仲間われらイレブン」「群青」「今を生きて」などの人気曲をはじめとし、アンコールを含め一五曲でした。そんな中、今回の大きな見所は、日野市立旭が丘小学校合唱団との共演でした。団員のみなさん二四名との共演は、「たきび」「ふるさと」そしてアンコール曲の「勇氣一〇〇%」の三曲でした。

旭が丘小学校合唱団の明るく伸びやかな歌声は、光バンドの紡ぎ出すサウンドと絶妙なコンビネーションで、とても感動的でした。まさに音楽を通じて、日野市旭が丘において「地域共生社会」が実現できたのではないかと思います。今回は、結成三〇周年を記念してCDも発売することができました。そして日野市大坪市長にご来場頂き、お祝いのお言葉を頂戴しました。また、高田敏江さんには、いつも通り素敵な司会をして頂き、感謝申し上げます。

今回も、演奏会の福祉協力券売上の一部を、開催地の日野市社会福祉協議会へ贈呈させていただきました。

今年も非常に多くのお客様に足を運んでいただき、光バンド結成三〇周年の節目の会を盛り上げていただきましたこと、利用者・職員一同、心より感謝申し上げます。



今年もにぎわう保護者コーナー



今年新登場のサッカーゲーム

今年度も体育の日にチャリティーバザーが、無事に開催されました。今年も地域の方々や一〇〇名以上のボランティア、保護者の皆様のご協力とご支援のおかげで、多くの売上を得、大盛況で終わることができました。心より感謝申し上げます。

光の家のバザーは、今回で四一回を迎えます。長年、開催して来られたことは、このバザーという行事が、地域の方々に支えられ、地域に根ざした行事であると感じていきます。実際に当日は、小さいお子様からご年配の方たちまで多くの方が来場し、ふれあい、交流することができました。この長年続く伝統ある行事を、また来年も皆様、よろしく願っています。

第41回

チャリティーバザー

平成三〇年一〇月八日
旭が丘東公園・光の家ピロティ



第8回

光の家オープンハウス

「見えない人のくらし」

平成三〇年九月八日(土)
光の家地域交流センター



今年もアイマスクをしてジュースを飲む体験や卓球体験、また、手触りだけで物を当てるクイズなどでは、視覚のない他の感覚を使うことの面白さを感じてもらいました。

今年には特に、視覚障害の方でも楽しめるとして「黒ひげ危機一髪ゲーム」を新規導入し、光の家の利用者の方と来場者の方との勝負!も見られ、バリア

毎年、9月の前半の土曜日に企画しています「光の家オープンハウス」。地域の方たちに光の家へ来てもらおうということで8回目となりました。毎年、小学生を中心に、小さいお子さんから年配の方まで多様な来場者があります。



親子で一緒に点字を打ちました!



アイマスクでジュースを注ぐのってむずかしい!

フリーに交流する、共に楽しむということができ貴重な時間となりました。

また、近隣の日野四中の演劇部の女子部員がイベントのお手伝いを毎年してくれています。彼女たちも楽しみながらボランティアをしている姿を見ていると、地域の中にある光の家として頼もしく感じました。



パン食い競争で、ガブ!



息を合わせてワン、ツー、ワン、ツー!

スポーツに最適な気候の日が増えてきた二〇月に、光の家新生園、光の家神愛園で、毎年恒例の運動会が開催されました。

秋の運動会

■新生園運動会 一〇月一六日(火)
光の家オリンピック広場

■神愛園小運動会 一〇月三〇日(火)
光の家講堂



東京光の家の顧問弁護士の小嶋豊郎先生が、一〇月四日(木)に天に召されました。

先生は、長年にわたり、光の家の良い時も、苦しい時も、常に光の家のことを気にかけてくださり、支え続けてくださいました。職員一同心より感謝しています。

心よりご冥福をお祈りいたします。

小嶋豊郎先生
逝去される

同行援護従業者養成研修 受講生募集 (東京都指定研修)

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

【研修期間】平成31年1月26日(土)～2月10日(日)
通信期間：平成31年1月26日(土)～2月10日(日)
通学期間：平成31年2月9日(土)～2月10日(日)の2日間

【場所】東京光の家 地域交流センター 研修室他

【費用】17,000円 【定員】20名 ※定員になり次第メ切

【研修修了者】同行援護従業者の認定資格を取得

【お問い合わせ】東京光の家 TEL：042-581-2340



寄付者名簿

平成三〇年七月二日～二月五日

- 古賀眞知子様…スイカ 二玉
- 浅石 常勝様…メロン 八個
- 米 三〇kg
- 宮川 光司様…掃除用具 一式
- 松田 功様…梨 三〇kg
- 井川 幸雄様…梨 二〇kg
- ふれあい介護シヨップりんりん様
ポータブルトイレ 台
- 渡邊 幹男様…梨 一〇kg
- 宮洞 真様…梨 一〇kg
- 綾木 潔様…梨 四〇kg
- 米倉 清治様…米 二七kg
- 柴垣 政明様…点字タイプライター 台
- 林田八重子様…米 九.五kg
- 島田 英樹様…梨 一五kg
- 花房 輝様…花とみどりのギフト券 一〇枚
- 阿久津 隆様…柿 二四.七kg
- 宮田 俊晴様…柿 二二.四kg
- 黒沢青果株式会社 代表取締役
- 黒沢 義彦様…チョコレート 九六個
- 広瀬 美幸様…米 二〇〇kg
- 日本紙パルプ商事株式会社様
- (東京善意銀行様を通して)
- …トレットペーパー 二二四バック

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

自衛消防活動審査会

敢闘賞受賞

平成三〇年九月二九日(水)
日野市万願寺中央公園グラウンド

まだ強い日差しが照りつける
中行われた日野市自衛消防訓練
審査会にて、東京光の家から参
加した男子隊、女子隊とも敢闘
賞を頂きました。



女子隊、男子隊、敢闘賞おめでとう！



今年度、光の家新生園の石
井正也さんの陶芸作品「ランプ
シールドⅡ」が努力賞に輝きまし
た。粘土を棒状に練り、高く積
み上げた大作です。石井さんは、
今回の努力賞の受賞で、「来年
度は最優秀賞を目指したい」と、
さらに一層気合が入ったようです。
その他、新生園からは作品二点
が入選しました。
た。おめでとう
ございました。



頂いた賞状を掲げ、高円宮妃久子さまと



今年も光の家新生園の作業
作品が、立川駅の伊勢丹で紹介
されました。今回は特別スペー
スを用意していただき、利用者
の陶芸作品、約二五点が展示さ
れました。オープニングセレモ
ニーには、利用者を代表して陶
芸訓練に参加している清水さん
が出席してきました。会場にて
多くの方に作品を見ていただき、
今後の励みとなったようでした。



デパート入り口の特別展示会場に作品が飾られました

くあとがき
秋晴れの好天気が続いており
ますが、お健やかに過ごさし
ことと存じます。

今回の光の家会報一九九号で
は日野市地域協働課の熊澤課長
にご寄稿をお願い致しました。

熊澤課長からは「地域に障害
者がいることを当たり前に」と
いう題で今年度、旭が丘中央公
園内にリニューアールオープンした
「旭が丘地区センター」に関連し
て書いて頂きました。

この「旭が丘地区センター」
で利用者が毎日、清掃やカフェ
の仕事を生懸命している姿を
地域住民の方々に見てもらおうこ
とで障害者の理解が深まり、共
に助け合うあたたかい地域づく
りにつながるということでした。

われわれ東京光の家も「地域
共生社会の実現」に向け、利用者
職員が一体となって地域貢献し
ていく必要があると感じました。

(常務理事 石渡 健太郎)

発行 一九一九年一〇月六日
東京日野市旭が丘一七七一七
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八二)二三四〇
FAX 〇四二(五八二)九五六八